

4. 他の外来哺乳類の緊急防除

4.1 西表島におけるノヤギの防除及びモニタリング手法の検討

4.1.1 これまでの経緯

令和3年度の第1回外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会において、西表島及び沖縄島北部やんばる地域におけるノヤギの増加が生態系へ影響を及ぼすことが懸念される意見が出された。そこで、令和3年度は西表島及び沖縄島北部やんばる地域における過去のノヤギの生息情報を整理した。

さらに、西表島におけるノヤギによる生態系への影響についての県民の関心の高まりを受け、沖縄県では令和4年8月から西表島においてノヤギのモニタリング及び試験的な捕獲作業を実施することとした。

4.1.2 モニタリング及び試験捕獲実施地域

令和3年度から環境省事業によるノヤギ捕獲が開始されていることから、西表島を区分けして捕獲エリアを分担することとした。ノヤギの確認地点やアクセス性等をもとに以下の9エリアに区分けした（図4-1）。なお、ノヤギ防除対策は、竹富町、沖縄県及び環境省等が連携して実施するものである。

今年度は環境省との調整の結果、古見岳エリア及び高那～美原エリア（環境省事業で捕獲作業実施中）に次いで目撃・痕跡数が多く、アクセス性の良い嘉佐崎エリアにおいて捕獲作業を行うこととした。

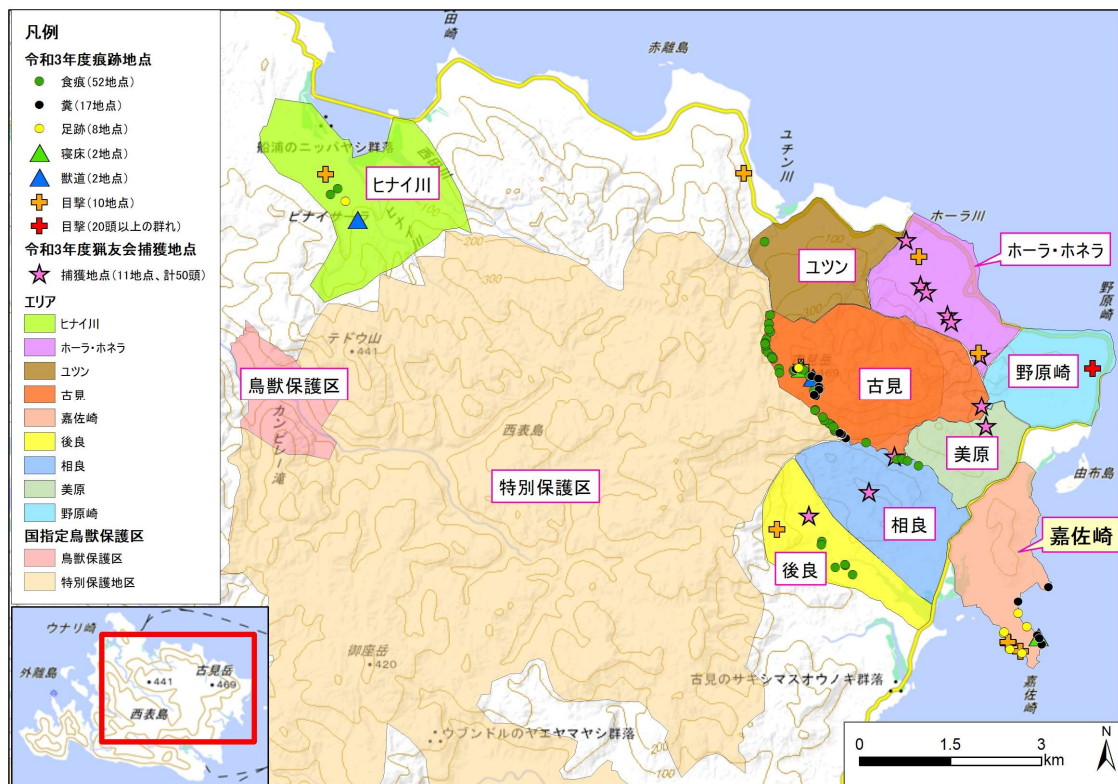


図 4-1 西表島における捕獲エリアの区分け

4.1.3 捕獲前モニタリング調査

嘉佐崎エリアを250mメッシュに区切り、1メッシュ1~2台程度の密度で自動撮影カメラを計36台設置した。特に目撃や糞の多いエリアの南部には海岸線沿いと林内に20台、北部には海岸線沿い、林内、道路沿いに16台を設置した。設置場所は、ノヤギの痕跡（糞、ねぐら、足跡）確認地点、獣道または開けた場所とした。

捕獲作業前（令和4年8月~9月末）の撮影結果を以下に示した（表4-1、図4-2、図4-3）。ヤギは群れで行動するため、一度に撮影された最大の個体数を最大撮影個体数として示した。

捕獲作業前の9月はノヤギが36地点中13地点（撮影地点割合：36.1%）で427枚撮影され、嘉佐崎エリアの南部のみで確認された。最大撮影個体数は5個体であり、成獣が13地点、亜成獣が8地点で撮影された。

表4-1 捕獲作業前のノヤギの撮影状況

期間	月	ノヤギ撮影地点数				撮影地点割合	ノヤギ撮影枚数	合計稼働日数	撮影率	最大撮影個体数
		成獣	亜成獣	不明	総計					
捕獲前	8	12	2	0	12	37.5%	75	235.4	31.9	4
	9	13	8	2	13	36.1%	427	970.5	44.0	5

※撮影率は100撮影日数あたりの撮影回数を示す。

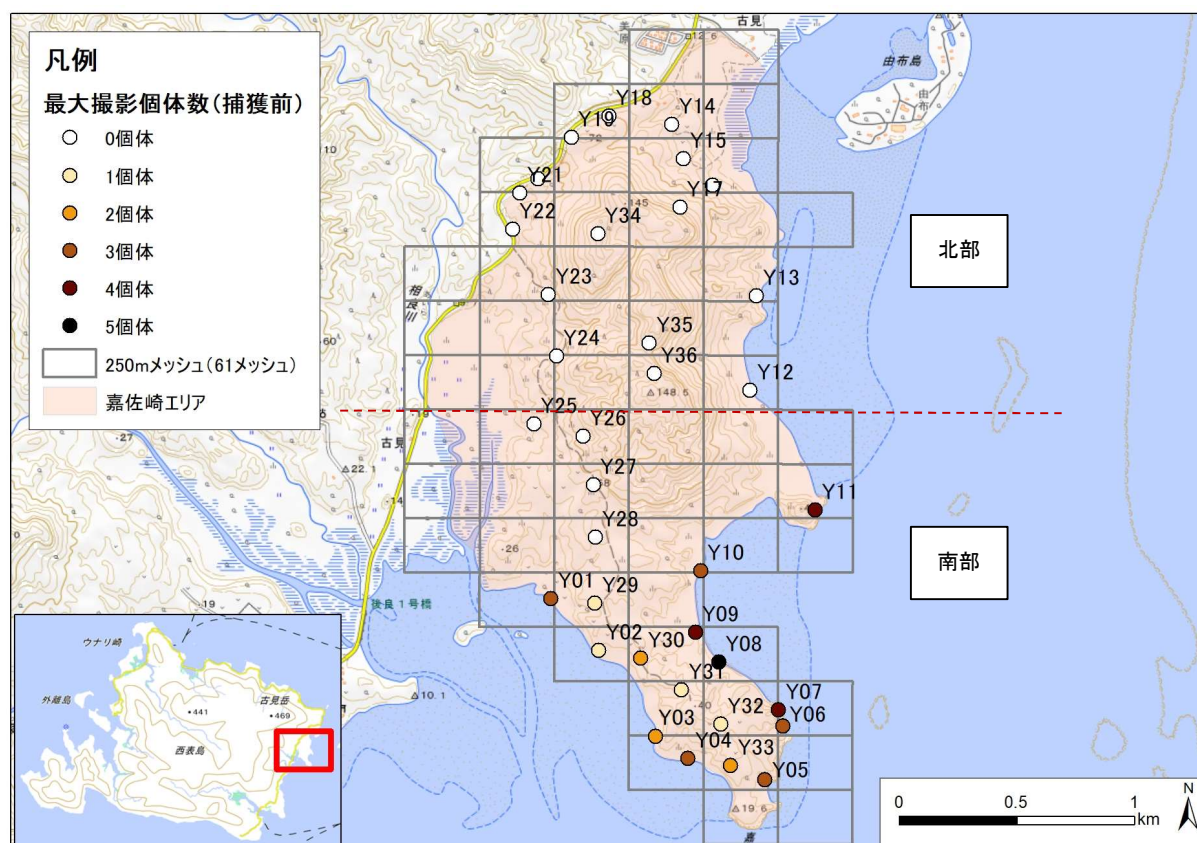


図4-2 捕獲作業前のノヤギ撮影地点

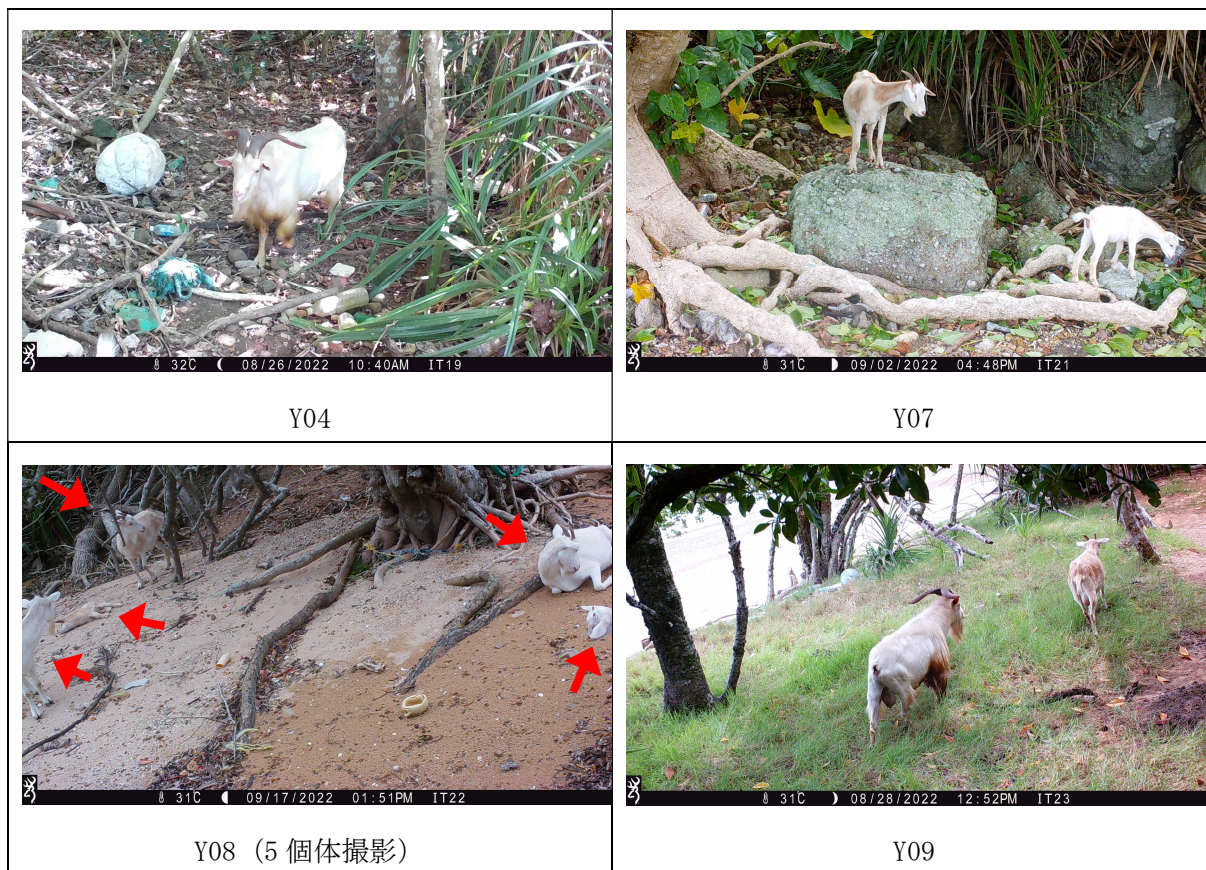


図 4-3 嘉佐崎エリアで捕獲作業前に撮影されたノヤギ

4.1.4 捕獲作業

事前のモニタリング調査の結果、嘉佐崎エリアの半島南部でノヤギが確認されたため、くくりわなによる捕獲作業を行った。くくりわなは、自動撮影カメラでノヤギが頻繁に通ったことが確認された場所もしくは足跡がある場所へ設置した。設置後は回収するまで1日1回の頻度で点検した。

10月3日から14日（12日間）の作業の結果、成獣オス3個体、成獣メス2個体、亜成獣メス1個体の計6個体が捕獲された（図 4-4）。捕獲した個体は頭胴長、体重を計測後、死亡獣畜取扱場で埋設した。11月は2日から11日（10日間）に捕獲作業を実施したが、ノヤギの捕獲はなかった。

10月の捕獲作業において、自動撮影カメラによるモニタリングとくくりわなの設置により、12日間で6個体のノヤギを捕獲することに成功したことから、次年度はこの方法を継続しつつ、より効果的に捕獲する方法を検討する。